



新型コロナウイルス感染症に関連した人権への配慮

校長 羽田野 庸史

新型コロナウイルスの感染者数が、第2波の底打ちの兆しも見せないまま、11月に入り、毎日のように各都道府県、日本全国の感染者数の過去最多を伝えています。私は、寒くなってきたことによる換気の不足に原因の一つがあると考え、毎日、通勤に利用している電車でも、窓が開いていないと、換気のため、窓を開けますが、やはり最近では、寒さのためか、露骨に嫌な顔をされることも珍しくなくなりました。

さて、我が国では、12月4日～10日を「人権週間」と定めています。これは、1948年（昭和23年）12月10日の国際連合総会で世界人権宣言が採択され、そのことを記念して12月10日が「世界人権デー」となり、この日を最終日とする1週間（12月4日～10日）を「人権週間」としています。本校でも、同じ1週間を人権週間として、各クラスの人権標語の発表などいくつかの取り組みを行います。

これまで人権課題には、女性、子供、高齢者、障がい者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者・ハンセン病患者、犯罪被害者やその家族、インターネットによる人権侵害、北朝鮮による拉致問題、災害に伴う人権問題、ハラスメント、性同一性障がい、路上生活者などの課題がありましたが、今年は、これに加え、新型コロナウイルス感染症に関連する偏見や差別が、大きな人権問題となっています。感染への不安や恐れから、感染された方々やその家族をはじめ、外国人の方々、医療関係者や流通業者など私たちの日々の生活を支えてくださっている方々に対しても、偏見が抱かれ、差別や誹謗中傷がなされています。さらには、インターネット上での悪質な書き込みや、心ない言動などについても聞かれます。

これらが続くと、感染が疑われる場合であっても、受診や検査、保健所への正確な行動履歴や濃厚接触者の情報提供をためらってしまうなど、感染拡大の防止にも支障が出てきます。

新型コロナウイルスは、誰もが感染する可能性がある病気です。感染した児童や保護者、教職員を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、さらなる感染拡大を防ぐことが大切です。現在の状況は、だれが、いつ感染してもおかしくない状況ではないでしょうか？自分にとって身近な方が、感染者や濃厚接触者と判定された場合、自分が感染者や濃厚接触者だったという視点を忘れずに、その方と接することが求められます。

私たち一人一人がお互いを思いやる心を持ち、お互いに支え合って生活していくことが今こそ求められています。人権週間にあたって、あらためて立ち向かうべき相手はウイルスであって、人ではないことを考える一週間にしたいと思います。

【スマイルルーム担当教員の変更について】

スマイルルーム担当の村上沙織教諭は、12月2日（水）より産休に入ります。村上教諭に代わって、12月2日（水）より宇野英理子教諭が指導に入ります。

諸事情をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

12月 行事予定

日	曜	行事等	放課後遊び
1	火		5年
2	水	4時間授業 租税教室(6年)	—
3	木	避難訓練 体育朝会(低学年)	6年
4	金	体育朝会(高学年) 人権週間開始 4時間授業 研究授業(4-2)	—
5	土		—
6	日		—
7	月	子どもサミット(6年代表児童) 委員会活動	—
8	火		6年
9	水		—
10	木	人権週間終了	3年
11	金		5年
12	土		—
13	日		—
14	月	クラブ活動	—
15	火		4年
16	水		—
17	木	児童集会 個人面談①(希望者)	—
18	金	個人面談②(希望者)	—
19	土	土曜日授業	—
20	日		—
21	月	個人面談③(希望者)	—
22	火	個人面談④(希望者)	—
23	水	個人面談⑤(希望者)	—
24	木	音楽朝会 給食終了	6年
25	金	終業式(4時間授業)	—
26	土	冬季休業開始	—
27	日		—
4	月		
5	火		
6	水		
7	木	冬季休業終了	
8	金	始業式(4時間授業)	
9	土	日本文化の時間	

お知らせ

避難訓練

今月の避難訓練は、3日(木)に緊急地震速報が発令された場合の避難行動について学習します。家で過ごしている時や、お子さんが一人である時などに緊急地震速報が発令された場合の身の守り方についてご家庭でも話し合ってみてください。

人権の日

今月の人権の日は、4日(金)です。4日(金)の給食は、スペイン料理のパエリアとスパニッシュオムレツです。

なわとび月間

例年行っていた「なわとび大会」は、今年度、新型コロナウイルス感染拡大防止とします。その代わりに12月を「なわとび月間」として、短なわとび中心に体力向上を図ります。

*2学期の終業式、

3学期の始業式について*

当日の天候によって、校庭で2学年ごと、または、体育館で1学年ごとに時間をずらして実施します

終業式も始業式も児童の登校は通常通りですが、いずれも4時間授業で、給食はありません。

生活指導

12月の生活目標 「自分も友達も大切にしよう」

生活指導主任 高木 順一

12月4日(金)～10日(木)は、人権週間です。自分自身を大切にするとともに、日常的に「ありがとう。」「大丈夫。」など、周囲の人を大切にできる言葉遣いや行動ができるように指導していきます。

また、令和2年の最後の月でもありますので、学校をきれいにしたり、身の回りの整理整頓にも取り組みます。

生活指導で取り組む一つ一つの行動が自分も友達も大切にしている行動につながっていることに気付かせていきます。

なわとびへの取り組み【なわとび月間】

体育主任 仁平 雄登

コロナ禍における運動不足が叫ばれる中、自宅で手軽にできる運動として縄跳びへの注目が集まっています。なわとびは、ランニング同様に有酸素運動です。有酸素運動とは、酸素を使い、体内の糖質・資質をエネルギー源とする、筋肉への負荷が比較的軽い運動です。縄を回して跳ぶという至ってシンプルなものに見えますが、実は体の47種類もの筋肉を同時に使うということもあり、多くの身体機能を向上させることができるそうです。具体的には、心肺機能を向上させる効果の他、血圧を正常に保ったり生活習慣病にかかるリスクを低くしたりする効果があるそうです。また、上半身を真っすぐに保って跳ぶことで、体幹を鍛えることもできます。

今年度は、例年行っていたなわとび大会は行わず、「なわとび月間」として短なわとびに取り組めます。なわとびカードをもとに、自分のめあてに向かってそれぞれの技に取り組んでいきます。なわとびカードには、初級編と上級編があり、それぞれに、前跳びやあや跳び、二重跳びなどの単独技と、一定時間決まった技に取り組むチャレンジホッピングが記載されています。縄をうまく操作して様々な跳び方にチャレンジすることは、身体の巧みな動きを高めるために、そして、一定時間跳び続けることは持久力を高める上で効果的です。体育の時間や休み時間に取り組む、多くの身体機能を高めて健康な体づくりに励んでいきます。

上手に、また長く跳べるようになるためには、縄の長さも大切です。片足で縄を踏んでピンと張り、グリップの部分が胸とへその間のあたりにくる程度が丁度よい長さです。短なわによっては、児童自身で長さを調整することが難しいものもあります。ご家庭で調節したり、調整の仕方を確認したりしてみてください。なわとび月間で体づくりを行い、心身共に健やかに新しい年を迎えましょう。

《学年の窓》

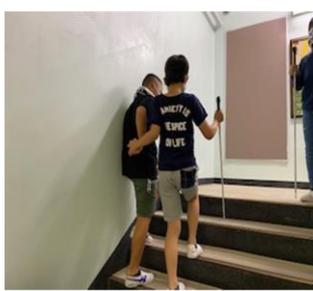
4年生について

4年1組担任 栗原 建二

4年2組担任 佐々木 浩人

4年生は、何事にも積極的に取り組んでいます。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で様々な制限の中、学習に取り組んできました。先日の体育学習発表会では、学年として初めて一つのことを協力してやり遂げることができました。休み時間には、演技曲の歌を口ずさんだり、自ら練習したりするなど意欲的に取り組みました。本番、演技終了後に保護者の方々から温かい拍手をいただき、「緊張したけど、楽しかった。」「また踊りたい。」というも以上に達成感を味わった様子でした。

4年生として過ごす時間も残り4ヶ月ほどになりました。高学年になると委員会活動も始まり、クラスで行っている当番活動や係活動だけでなく責任ある行動をとる必要があります。高学年に向けて「Step up」していくために、今、自分が何をすべきか考え、実践していく機会を作っていきたいと考えています。



東町リモートミュージックビデオ制作について

音楽会委員長 畠中 圭一

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、音楽会が中止となりました。同様に様々な行事が中止となる中、音楽で何か子供たちの心に残るイベントはできないかと考え、案として出てきたのが今回のリモートミュージックビデオ制作でした。しかし、この案の実現には様々な課題をクリアする必要がありました。レコーディングや編集を依頼する業者の選定、子供たちができるだけ安全に歌うことができる場の設定、また作品に残すが故の彼らの歌声のクオリティを保証するための練習量などです。

通常、本番一回勝負の音楽会では、多少のミスや音程のズレはさほど気になりませんし、それよりも子供たちの一生懸命取り組む姿の方が感動を呼ぶと言えるでしょう。しかし、繰り返し聴くことのできる作品に残すとなると話は別です。必然的に、何度も聴くに堪える最低限の完成度がそこに求められます。音楽の授業では、今まで以上に細かい練習をし、一生の思い出に残る作品を残すことの意味を彼らに考えさせました。

本番では、レコーディングスタジオと化した音楽室で、緊張感と高揚感が高まる中、録音と撮影が行われました。一人一人が、これまでの練習の成果を出し切るために一生懸命歌い、同時に動画を見てくれる人達のことを思いながら笑顔で楽しみながら取り組みました。

このように、音楽を通して、子供たちはもちろんのこと、教員にとっても保護者の皆様にとっても思い出に残る作品づくりに携わることができたことを嬉しく思います。動画の発表は、12月中旬を予定していますので、楽しみにお待ちいただけたら幸いです。なかなか思い出づくりの場がないところですが、この作品が皆さんにとって、友達との絆の大切さや一丸となって何かを創り上げる素晴らしさを感じさせるものになることを願っています。

